

資料2 みどりの現状

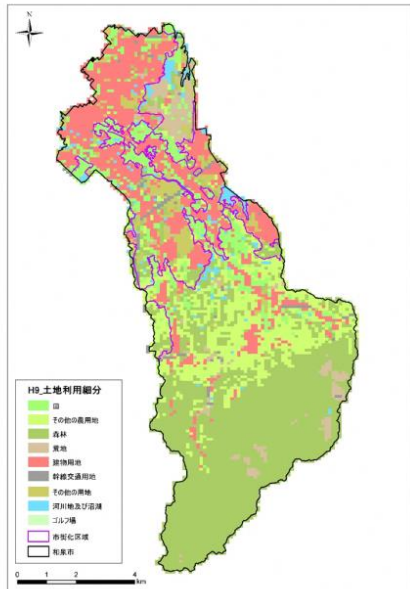
2-1 みどりの概況

(1) 土地利用の変遷

第1次計画策定時点の土地利用と、現在の土地利用を比較すると、建物用地が増加し、みどりの土地利用（田、その他農用地、森林、河川及び湖沼）が減少しており、みどりが建物用地に転換されてきていることが伺えます。

現行計画策定時(平成9年)

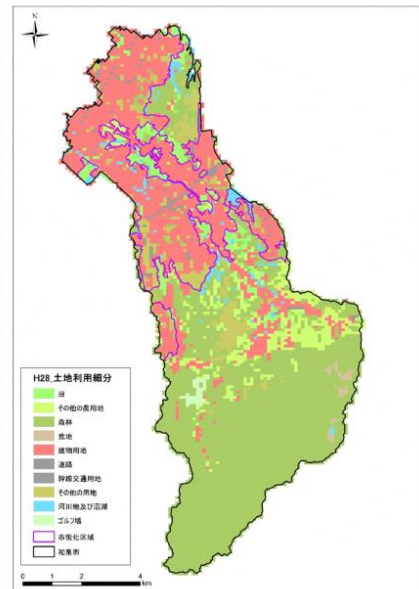
建物用地 : 20.4%
みどりの土地利用 : 67.8%
(田、その他の農用地、森林、河川地及び湖沼)



平成9年(1997年)

現状(平成28年)

建物用地 : 28.7%
みどりの土地利用 : 61.5%
(田、その他の農用地、森林、河川地及び湖沼)



平成28年(2016年)

図：土地利用の変遷

出典：国土数値情報より作成

(2) 緑被地の現状

衛星データより、現在の緑被の状況を確認すると次ページの通りです。

草地・樹林地、農地、水面の面積は、市域の73.4%を占めています。

(3) 都市公園の現状

都市公園面積を、第1次計画策定時と現在を比べると以下の通りです。

都市公園の面積は第1次計画策定時に比べて約2倍に増加し、一人当たりの都市公園面積も約2倍に増加しています。

表 都市公園面積表

	第1次計画策定時 (平成10年(1998年)4月時点)		本計画策定時 (平成31年(2019年)4月時点)	
	箇所	面積 (ha)	箇所	面積 (ha)
街区公園	144	16.33	241	24.59
近隣公園	9	15.10	17	33.27
地区公園	0	0.00	1	5.35
総合公園	2	10.90	2	16.10
都市緑地	22	30.97	55	67.49
緑道	0	0.00	2	2.37
合計	177	73.30	318	149.17

表 一人当たりの都市公園面積

	第1次計画策定時	本計画策定時
人口 (人)	161,000* ¹	185,936* ²
一人当たりの都市公園面積 (㎡/人)	4.56	8.02

* 1 : 都市計画年報 (平成8年 (1996年)) より

* 2 : 統計いずみ (平成30年 (2018年) 3月末現在)

(参考) 全国平均 : 10.5 ㎡/人 (平成29年 (2017年) 度末)、和泉市都市公園条例基準 : 10 ㎡/人以上

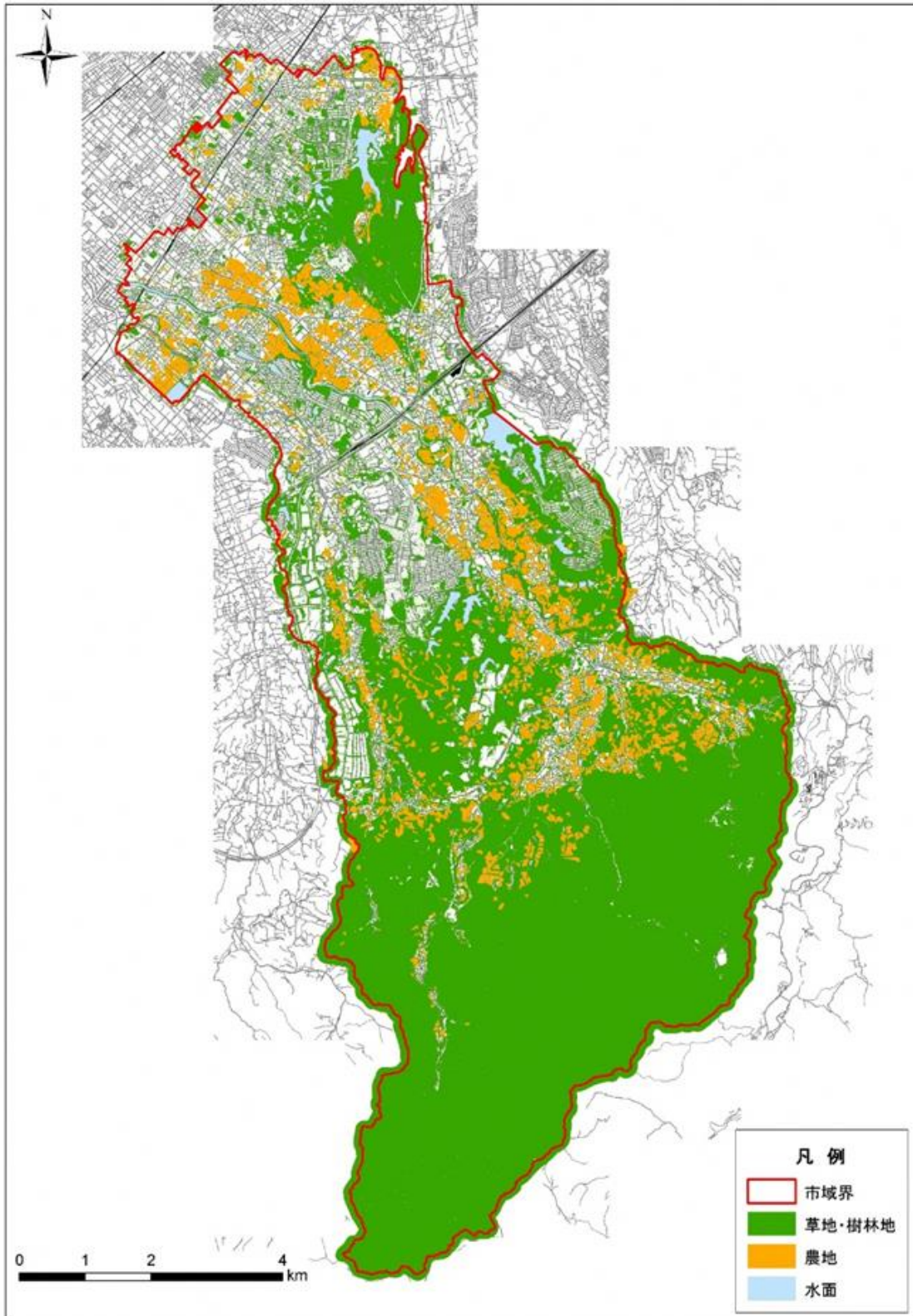


図 緑被図

出典：Digital Globe 社製衛星画像より作成

(平成 30 年 (2018 年) 8 月 4 日撮影)

参考1:大阪府におけるみどりの現況

大阪府では、「みどりの大阪推進計画」で、府内のみどりの現況を以下のように示しています。

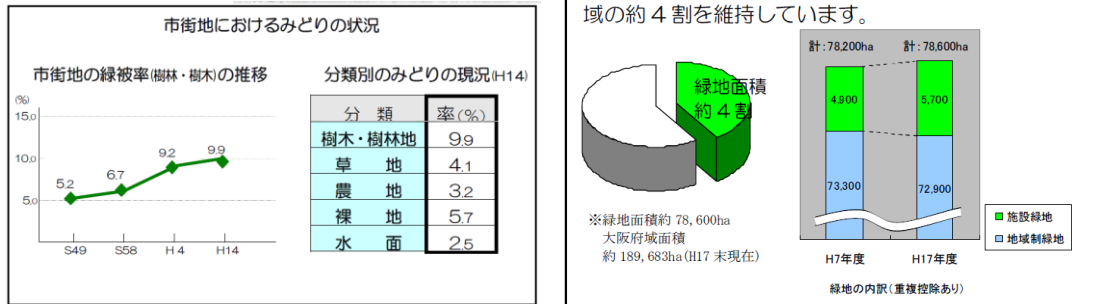


図 大阪府におけるみどりの現況

出典:「みどりの大阪推進計画」(大阪府)

2-2 環境保全に資するみどり

市内の緑被分布と地表面温度を見ると、まとまったみどりやその周辺では、他の地域より地表面温度が低くなる傾向にあります。これらのみどりはヒートアイランド現象や地球温暖化を緩和する役割を担っています。

また、二酸化炭素の吸収源としての役割を担っています。

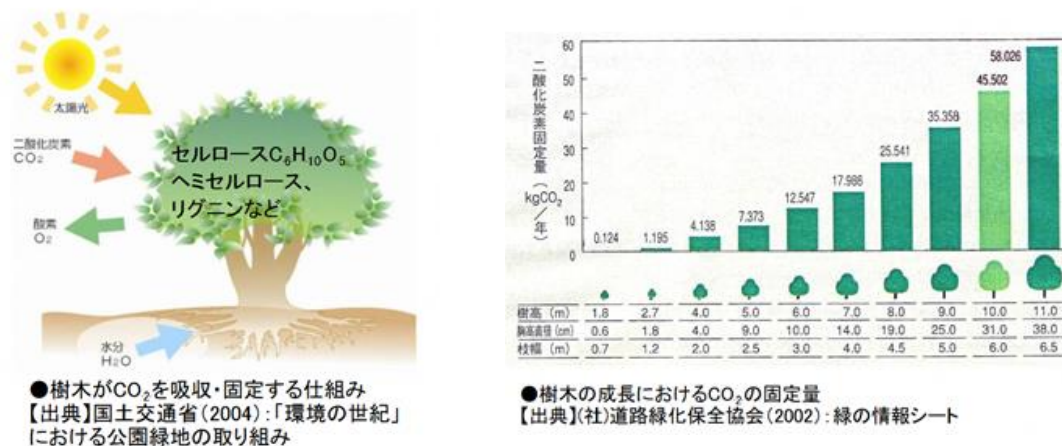


図 みどりの効果の例（二酸化炭素吸収）

表 みどりの効果の例（ヒートアイランド現象の緩和等）

	効果の知見		出典
ヒートアイランド現象の緩和等、都市の熱環境改善の効果	河川を含む幅員 100m 程度の緑地や、幅員 200m 程度の樹林	平均表面温度が周辺市街地に比べ 5~7℃ 低い。	「ランドサット TM データ解析による都市の気象緩和に有効な緑地形態に関する基礎的研究」入江彰昭、平野侃三 第 30 回日本都市計画学会学術研究論文集（1995）
	幅員 100m 程度の河川緑地	河川から 200m の範囲まで低温である。	「ランドサット TM データ解析による都市気象緩和に効果的な緑地形態と規模に関する基礎的研究」入江彰昭、平野侃三 第 34 回日本都市計画学会学術研究論文集（1999）
	1ha 程度の緑地	周辺市街地に比べ気温が 0.2℃ 程度低く、低温域は 40m におよぶ。	「緑地の規模と周辺市街地の気温低下との関連性について」尹ほか 第 12 回環境情報科学論文集（1998）
	大河川（例：荒川）	周辺に比べて約 3℃ 低い。	「河川周辺の紀行の快適性」北川ほか 土木技術資料 31-10（1989）
	街路樹	緑陰の内外では 0.5~1.5℃ の気温差がある。	「ヒートアイランド現象緩和と都市緑化」山田宏之 グリーンエイジ（1999）

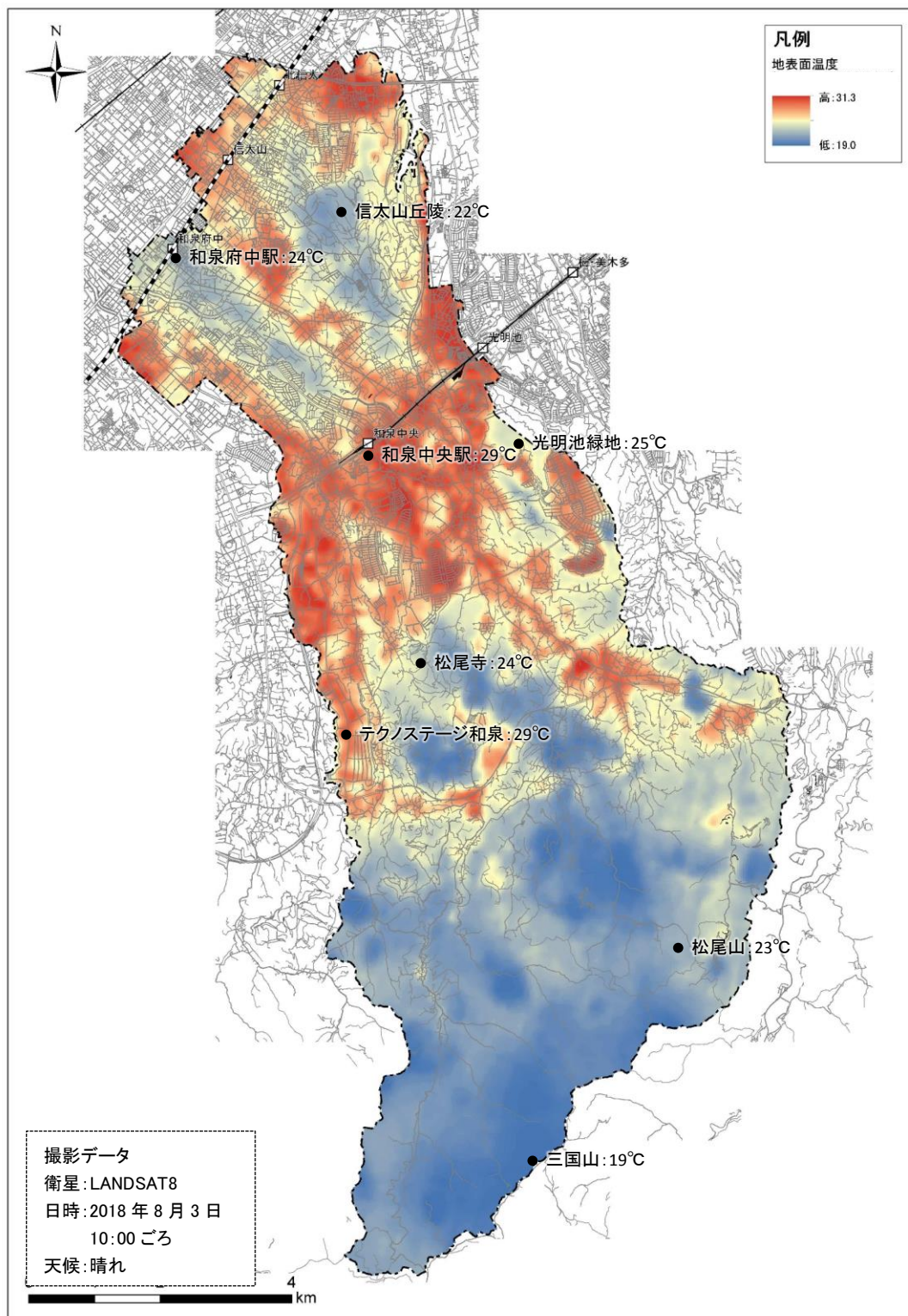


図 地表面温度

出典: 「LANDSAT8衛星データ」と「緑被データ」より作成

2-3 生物多様性に資するみどり

市内の植生は、大部分が植林地（スギ・ヒノキ・サワラ植林地等）や、二次林（アベマキ-コナラ群集、モチツツジ-アカマツ群集等）ですが、以下の場所には、比較的自然度の高い自然林や自然林に近い二次林が見られます。

- 和泉山脈：アカガシ群落、アカマツ群落、ケヤキ-ムクノキ群集、カナメモチ-コジイ群集、ウバメガシ二次林、シイ・カシ二次林等
- 信太山丘陵：ヨシ等の湿生植物、シイ・カシ林二次林等
- 槇尾川、松尾川：ケヤキ-ムクノキ群集、カナメモチ-コジイ群集等
- 聖神社：シリブカガシ群落（特定植物群落）
- 春日神社：シイノキの巨木、槇尾山施福寺：カヤの巨木



聖神社の社寺林



信太山丘陵

表 植生自然度区分

植生自然度	区分内容	植生
10	自然草原	・ヨシクラス ・貧養地小型植物群落
9	自然林	・ケヤキ-ムクノキ群集 ・カナメモチ-コジイ群集 ・アラカシ群落 ・アカマツ群落（V I） ・アカガシ群落 ・イロハモミジ-ケヤキ群集 ・シリブカガシ群落
8	二次林 （自然林に近いもの）	・シイ・カシ二次林 ・ウバメガシ二次林
7	二次林	・モチツツジ-アカマツ群集 ・アベマキ-コナラ群集 ・クリ-ミズナラ群集 ・アカシデーヌシデ群落（V）
6	植林地	・スギ・ヒノキ・サワラ植林 ・クロマツ植林 ・その他植林
5	二次草原 （背の高い草原）	・クズ群落 ・ススキ群団（V） ・ススキ群団（V I I）
4	二次草原 （背の低い草原）	・路傍・空地雑草群落 ・伐採跡地群落（V I I） ・伐採跡地群落（V） ・ゴルフ場・芝地 ・放棄畑雑草群落 ・放棄水田雑草群落
3	外来種植林 農耕地（樹園地）	・果樹園 ・竹林 ・残存・植栽樹群をもった公園、墓地等 ・クスノキ植林
2	外来種草原 農耕地（水田・畑）	・畑雑草群落 ・水田雑草群落 ・牧草地 ・緑の多い住宅地
1	市街地等	・造成地 ・市街地 ・工場地帯

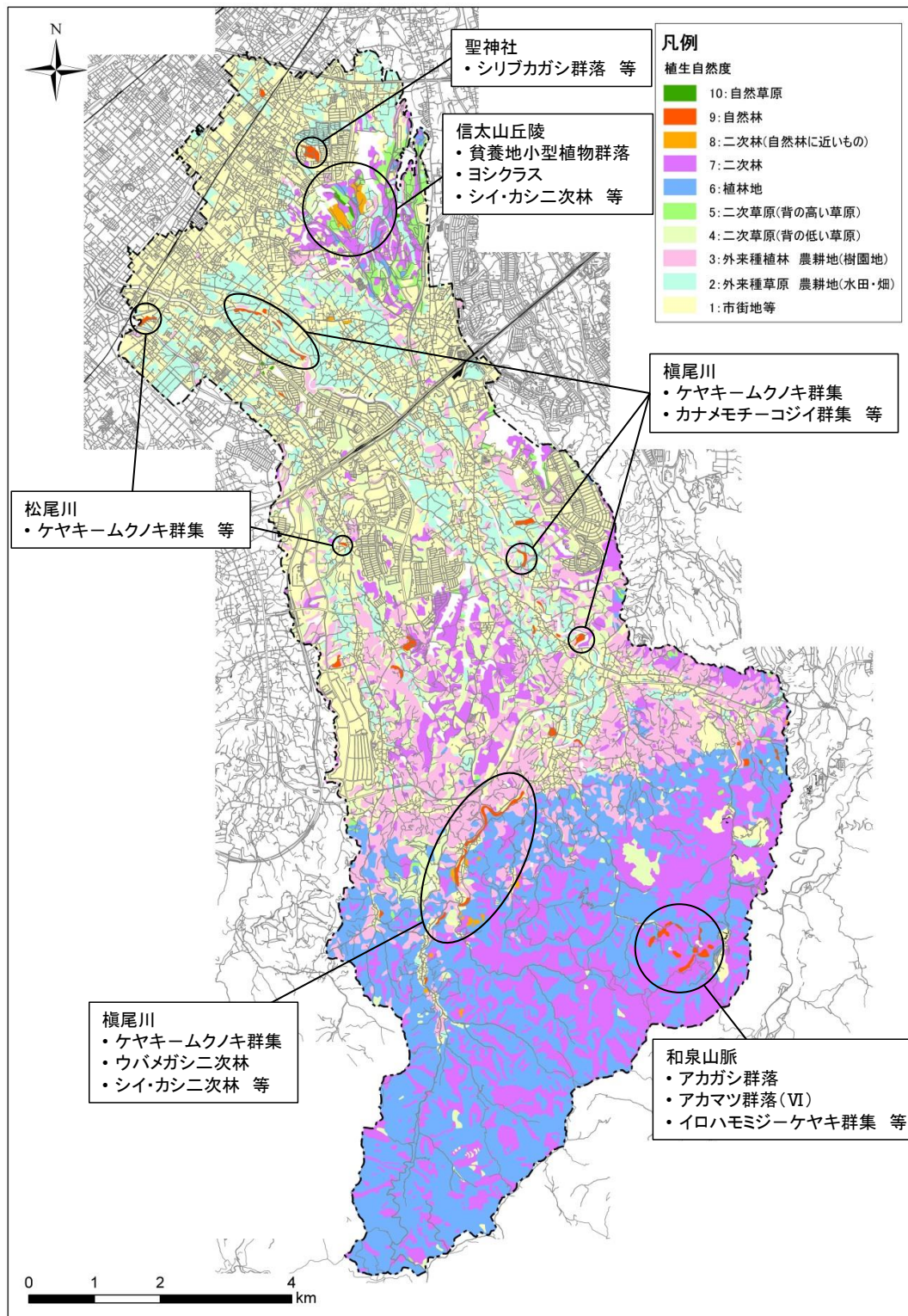


図 植生自然度図

出典：「自然環境保全基礎調査（環境省）」より作成

本市では、平成 25 年度（2013 年度）～29 年度（2017 年度）にかけて自然環境調査を実施しています。

調査の結果、多種多様な生物種とともに、貴重な種も数多く確認されています。

表 生物確認種数





		種数	貴重種	
			大阪府レッドリスト 2014 掲載種	環境省レッドリスト 2017 掲載種
植物相		169 科 1,396 種	74 種	
			74 種	22 種
動物相	哺乳類	10 科 15 種	5 種	
			5 種	0 種
	鳥類	38 科 113 種	30 種	
			25 種	12 種
	爬虫類	9 科 15 種	6 種	
			5 種	2 種
	両生類	6 科 11 種	6 種	
			6 種	3 種
	昆虫類 (トンボ・チョウ)	15 科 112 種	20 種	
			20 種	5 種

これらの種は、樹林地・草地、農地、ため池、河川を中心に生息・生育しており、みどりが市の生物多様性を保全しています。

一方、アライグマやオオクチバス、ブルーギル、オオキンケイギクなどの特定外来生物に指定された外来種による生態系の攪乱がみられます。

特にアライグマは、農作物への被害が問題となっており、本市ではアライグマの捕獲協力報償金交付規程を設け、駆除を進めています。

図 本市内に生息する主な特定外来生物

<p>【アライグマ】 体重 4～10 数 kg、頭胴長 41～60cm、尾長 20～41cm。白色の顔に黒色系のマスクを着けたような外見で 4～7 の輪模様を尾に持つ。</p>		<p>【ブルーギル】 全長 25cm。湖沼やため池、堀、公園の池などに生息し、湖では主に沿岸帯の水生物帯に、河川でも主に流れの緩やかな水草帯に生息する。</p>	
<p>【オオクチバス】 全長 30～50cm。上あごの後端が眼の後縁の直下よりも後方に達する。湖沼やため池、河川の中下流域に生息する。</p>		<p>【オオキンケイギク】 キク科の多年生草本で、高さは 0.3～0.7m 程度である。路傍、河川敷、線路際、海岸などに生育する。開花期は 5～7 月。頭状花。虫媒花。瘦果をつける。</p>	

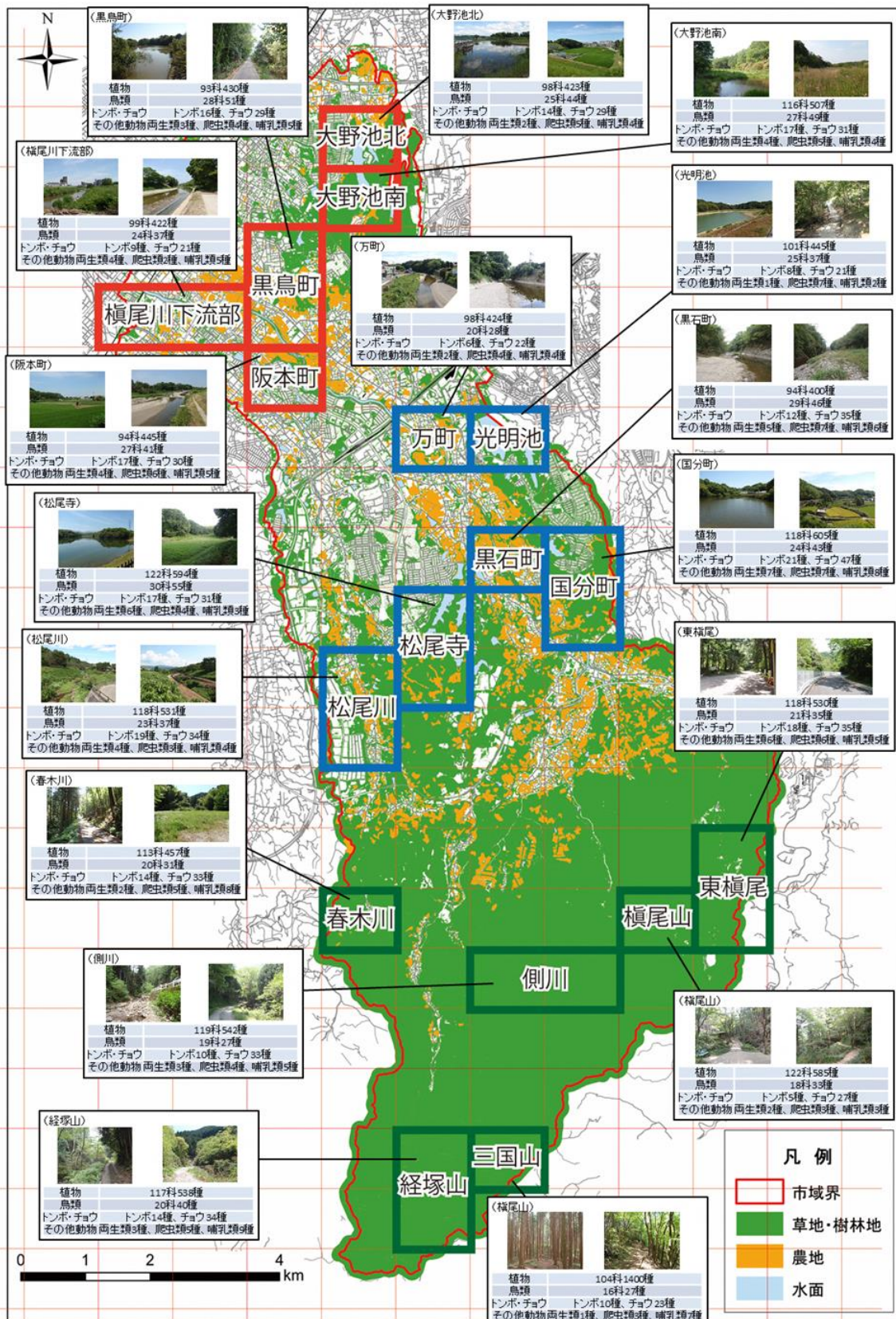


図 生物確認種数

出典：「和泉市の自然環境調査（和泉市）」より作成

2-4 レクリエーションに資するみどり

(1) 都市公園等

市内には、約 150ha の都市公園がありますが、市民一人当たりの公園面積は 8.0 m²/人であり、「和泉市都市公園条例」で定める基準：10 m²/人以上にはいたっていません。

一部の地域では、歩いていける場所（誘致圏）に都市公園等が無い地域があります。

都市計画決定後、長期にわたり事業着手・事業完了がなされていない公園があります。

和泉山脈には、自然公園（金剛生駒紀泉国定公園）が指定され、近畿自然歩道やダイヤモンドトレールなどの自然歩道、青少年の家や槇尾山グリーンランド等の環境学習の場、レクリエーションの場となる施設が整備されています。

(2) 歴史文化資源

国史跡である池上曾根遺跡や和泉黄金塚古墳といった遺跡をはじめとして、数多くの貴重な文化財があります。

小栗街道を中心として旧道沿いに形成された集落では、泉井上神社や聖神社といった歴史ある神社も見られます。

市域中部には白鳳時代に役小角の開基といわれ、境内は府の史跡にも指定されている松尾寺があり、南部には、山岳修験者の霊場の一つであり、現在は西国三十二箇所の第四番札所である槇尾山施福寺があります。

(3) 農業体験施設

農業体験交流施設として「いずみふれあい農の里」が整備されており、「和泉市コミュニティファーム」などの市民農園も整備されています。



コスモ中央公園



自然歩道



小栗街道



いずみふれあい農の里

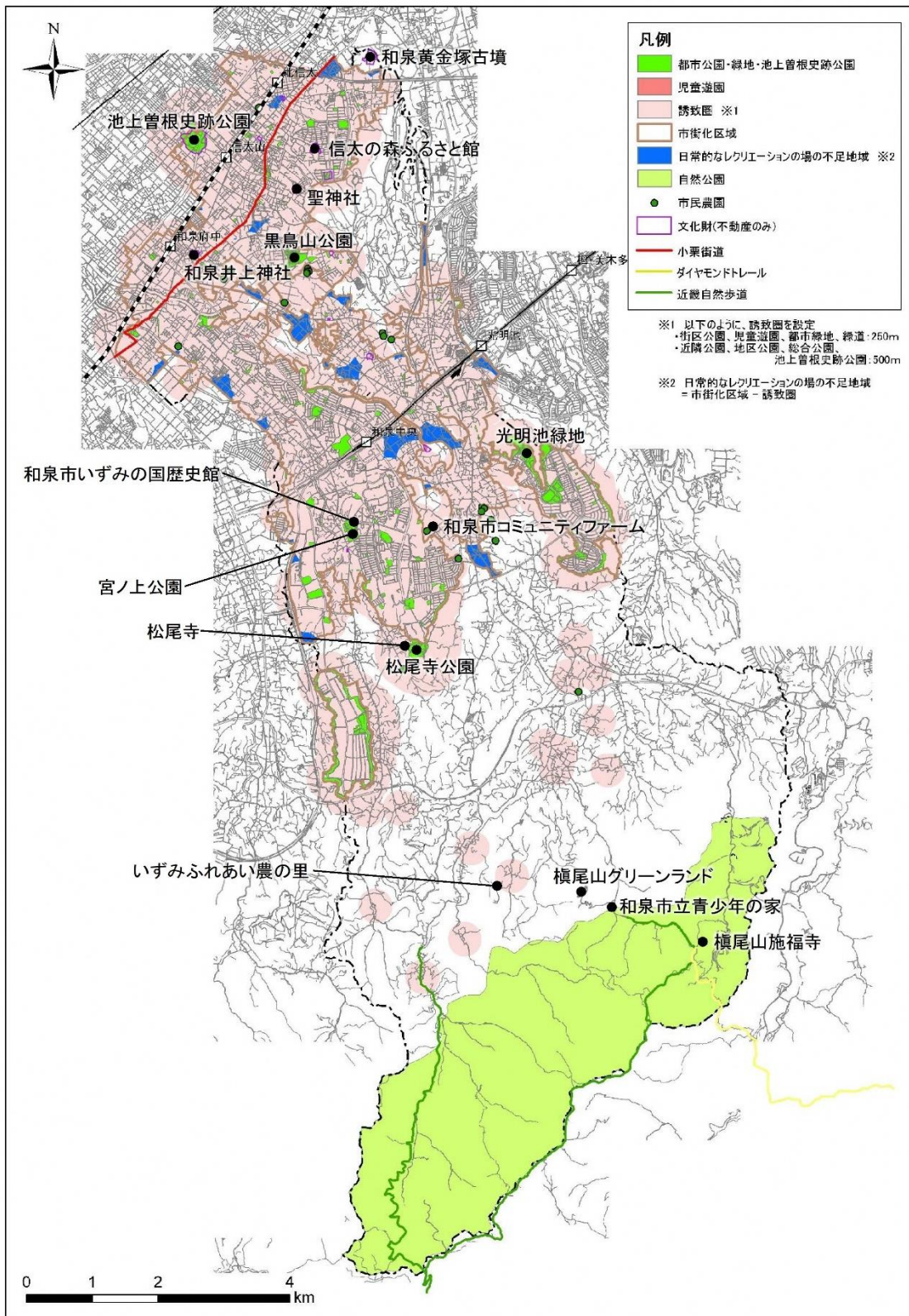


図 都市公園等と誘致圏
 出典：「都市公園等分布図」、「文化財分布図」より作成

2-5 防災に資するみどり

(1)土砂災害の軽減

和泉山脈では、土砂災害発生リスクが高い場所が見られ、山地のみどりは、災害発生を軽減する役割を担っています。

(2)浸水災害の軽減

平地では、槇尾川や松尾川による氾濫のリスクが高い場所が見られ、農地や規模の大きな樹林は洪水を軽減する役割を担っています。

(3)延焼の軽減

人口が集中する地区では、規模の大きな樹林地が延焼を軽減する役割を担っています。

(4)避難場所等

火災発生時に一時的に避難できる一時避難場所として、小学校のグラウンド及び都市公園（原則として概ね1ha以上）等を選定しています。

火災の延焼拡大によって生じる輻射熱、熱気流から住民の安全を確保できる場所（当面は、中学校及び義務教育学校のグラウンド）を広域避難場所として指定しています。

落下物、倒壊物による危険など避難の障害の恐れが少なく、水利の確保が比較的容易な広域避難場所に通じる道路を避難路として指定しています。



光明池公園（一時避難地）



黒鳥山公園（一時避難地）

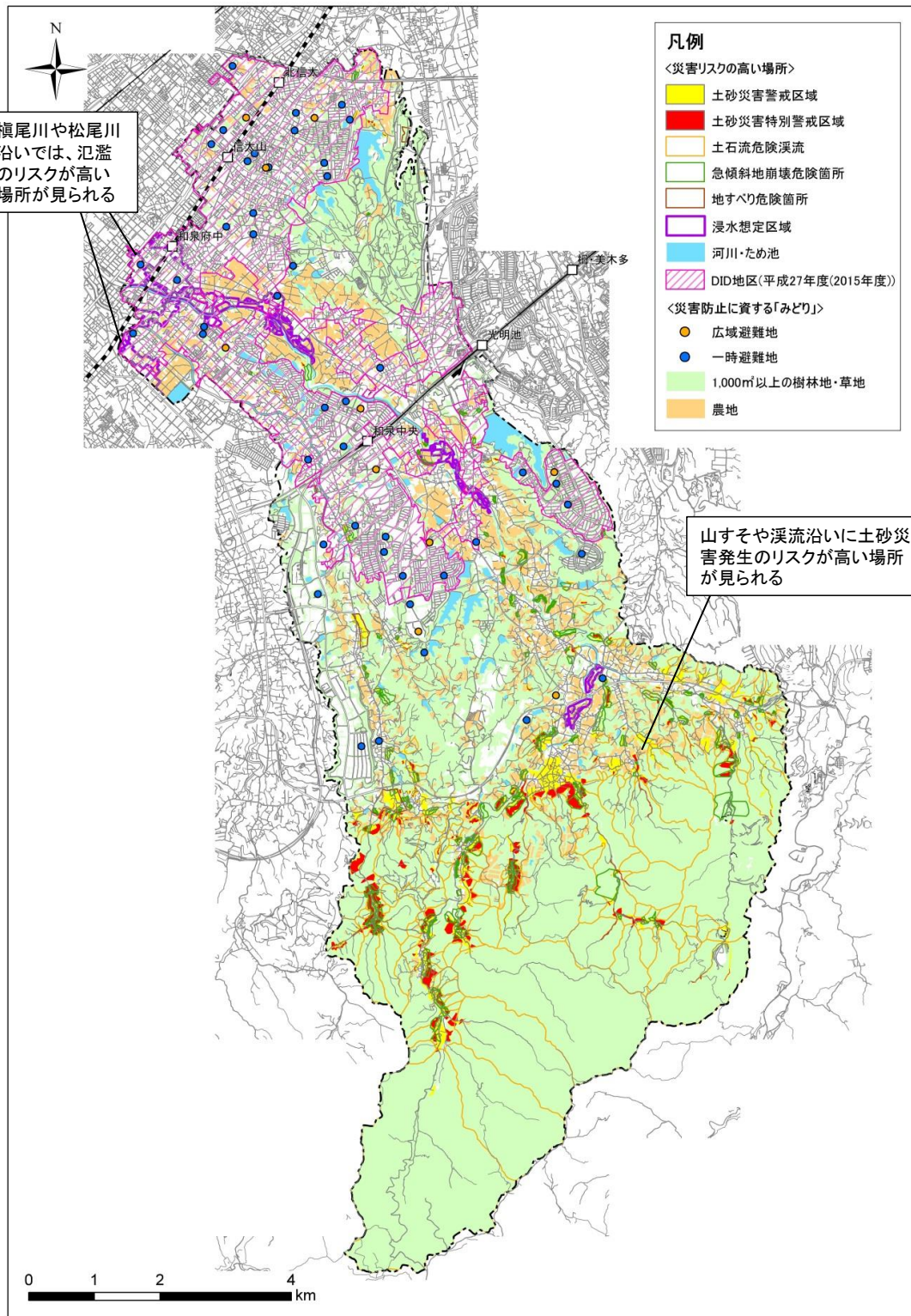


図 災害リスクの高い場所と災害防止に資するみどり

出典：「国土数値情報」、「和泉市防災計画」より作成

2-6 景観に資するみどり

本市の地形は、平地、台地、丘陵地、山地の大きく4つに分けられ、それぞれの地形に沿って土地利用がされています。その中で、信太山台地や和泉山脈に広がるみどりが、本市のみどりの骨格となっています。

街路樹や住宅地等のみどりは、身近なみどりの景観として認識されています。市内を流れる槇尾川や松尾川、多くのため池は、水辺の景観を形成しています。槇尾川や松尾川周辺の平地には、農地（水田、畑地）の景観が広がっています。丘陵地には、果樹園や樹林の景観が広がっています。和泉山脈のみどりは、市街地から見ると市域を縁取るスカイラインと捉えられます。



スカイラインを構成する和泉山脈



図 和泉市の地形

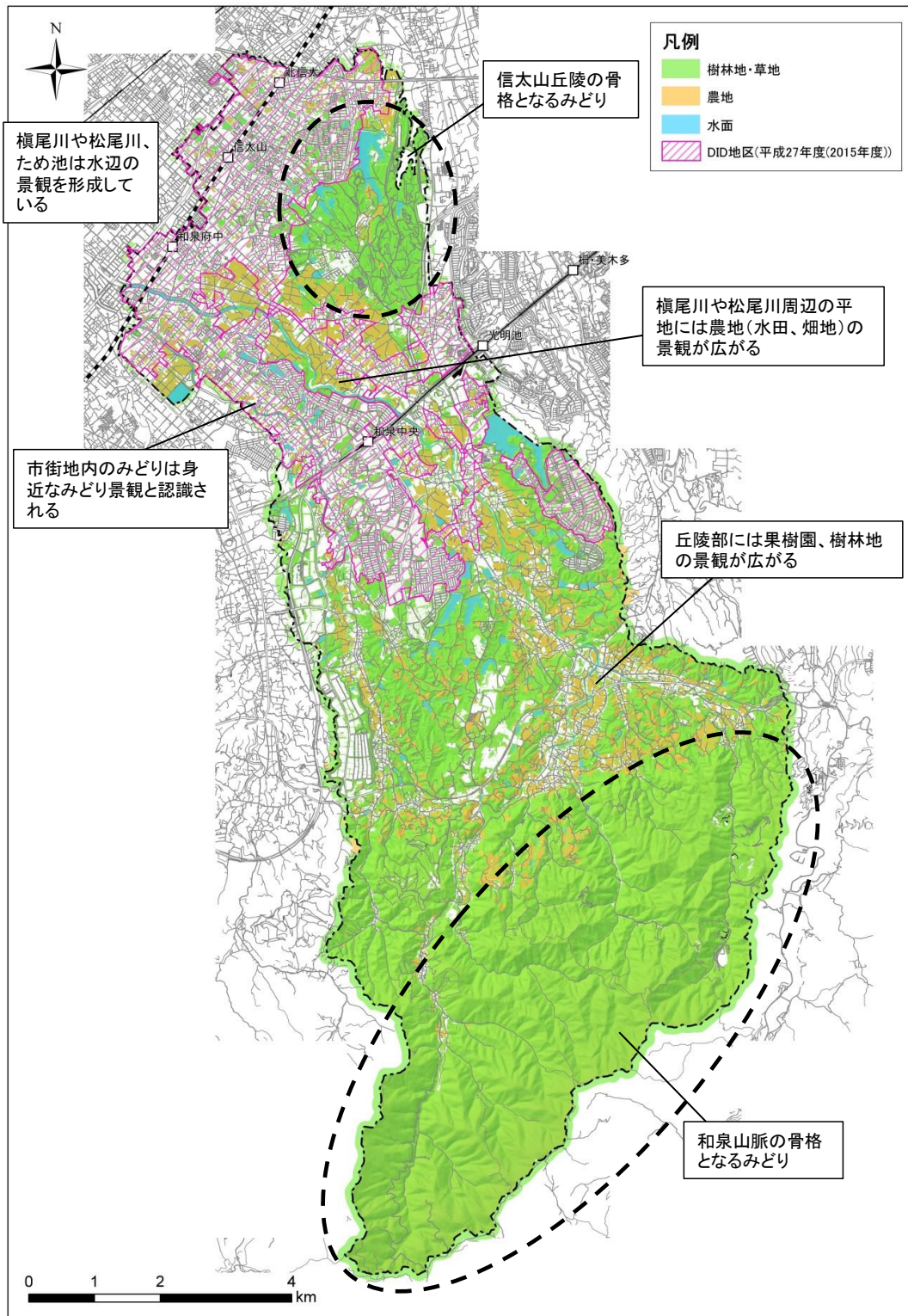


図 地形起伏と緑被

出典：「国土地理院標高データ」と「緑被図」より作成

2-7 みどりの担保性

みどりを担保する主な法規制として、以下の地域が指定されています。

- 生産緑地
- 農用地区域
- 近郊緑地保全区域
- 保安林、地域森林計画対象民有林
- 自然公園
- 指定文化財

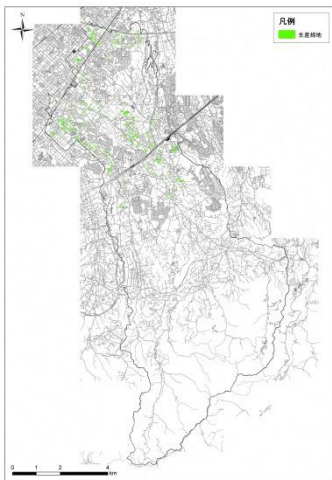


図 生産緑地



図 農用地区域

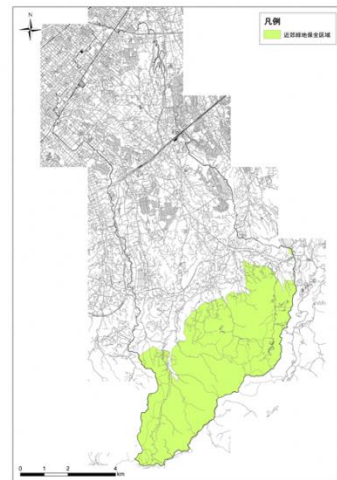


図 近郊緑地保全区域

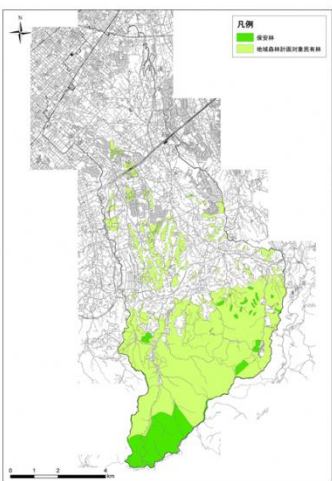


図 保安林、
地域森林計画対象民有林

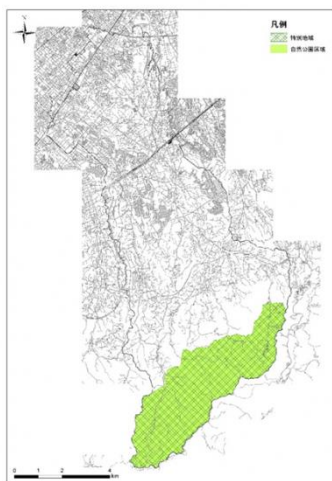


図 自然公園

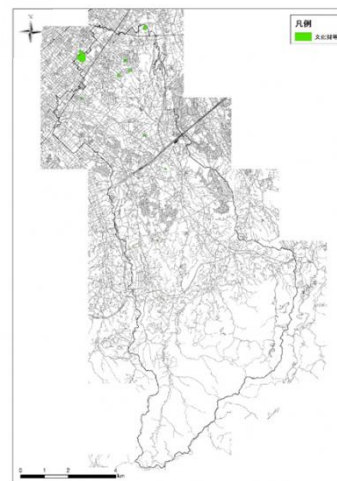


図 指定文化財（不動産のみ）

2-8 多様な主体によるみどりづくりを進める施策

本市では、行政によるみどりづくりの取り組みとともに、以下のような市民や事業者と連携した取り組みを実施しています。


表 多様な主体によるみどりづくりを進める施策

対象	施策類型	名称	主体	概要
山地のみどり	みどりの保全	アドプトフォレスト	大阪府	大阪府が事業者と森林所有者の仲人となり、地域（里山）の環境保全や生物多様性の確保、地球温暖化の防止のため、放置された森林や竹林を下刈りや間伐、植樹等による森づくり活動を推進。 （「JX日鉱日石エネルギー株式会社」が、平成25年2月～平成30年5月まで、仏並町で実施）
		笑働の森づくり	大阪府	槇尾川上流部で、少年サポートセンターに通う少年たちが、鳳土木事務所、和泉市、大阪府立大学、桃山学院大学他民間事業者等が共同で、森林整備や間伐材を利用した木工作業等を実施。 
		信太山保全活動	和泉市	「和泉市信太山丘陵市有地公園協議会」の中で、NPO 法人である自然環境団体や地元住民、大学関係者、市職員など公民協働で、原則として毎月1回保全活動を実施。 
		和泉の国の森づくり	森林ボランティア団体	森林ボランティア団体が市内森林の間伐、枝打ちなどの森林整備活動を行っている。
		信太山里山講座	和泉市	信太山丘陵里山自然公園の公民協働で整備するための講座。

対象	施策類型	名称	主体	概要
山地の みどり	担い手 育成	森林ボランティア養成講座	和泉市	森林を市民ボランティアで整備し、守り育てていくために、「森林ボランティア養成講座」を開講。
		炭焼き体験	南横山小学校	同校では、地域の貴重な伝統文化を後世に伝えようと昭和56年3月から毎年地域の古者を講師に招きPTAと協力しながら同体験学習を行っている。 
農地の みどり	みどりの育成	市民農園	和泉市	農業者以外の人々が、レクリエーション目的などで、小さな区画の農地を利用して自家用の野菜や花などを育てるための農園を開園。 
	担い手育成	和泉農業担い手塾	和泉市	参加者にみかん栽培の基礎知識・技術を学んでいただき、産地維持のための新たな担い手となる方や援農ボランティアとして活躍いただける方を広く募集。 
		援農ボランティア	和泉市	農業・農村に関心がある方や農業に取り組んでみたい方と、農繁期の手助けを必要としている農家を結びつける援農の取り組み。 

対象	施策類型	名称	主体	概要
農地のみどり	みどりの活用	農業体験	和泉市	<p>「いずみふれあい農の里」にて農業体験プログラムが用意されている。</p>  
		直売所	事業者	<p>市内で取れた農作物は、直売所等で購入することができる。</p>  
市街地	みどりの創出	いずみみどりの共生事業	和泉市	<p>平成22年（2010年）から10年間実施してきた「いずみいのちの森事業」の取組みを踏まえ、引き続き、住民や事業者、行政が協働で緑化活動を推進する。</p>   <p style="text-align: center;">植樹活動 黒鳥山公園千本桜</p>
		みんなで育てる花いっぱいプロジェクト	大阪府	<p>地域の小・中学校に、大阪府から花を育てる資材を提供して、学校及び地域の緑化を支援する。</p>   <p style="text-align: center;">いぶき野小学校 富秋中学校</p>

対象	施策類型	名称	主体	概要
市街地	みどりの創出	緑地協定	和泉市	<p>都市緑地法の規定に基づき、緑化に関する必要な事項を定め、緑豊かな良好な環境の維持増進を実施。</p>  <p>テクノステージ和泉</p>
		大阪府マイツリー事業	大阪府	<p>住民等からの寄付により、大阪府が管理する道路に街路樹を植栽し、寄付者の名前やメッセージ等を書き込んだ樹名プレートを取り付ける事業。</p>  
	緑化推進事業	和泉市	<p>自治会館や集会所、公園、児童遊園、住宅地等で公道に接した生垣において、花苗、樹木、花壇整備用のブロックやレンガ、生垣用樹木等を支給する。</p> 	
	みどりの活用	歴史ウォーク	和泉市	<p>市内の歴史的なポイントを巡るイベント。</p> 
		健康ウォーキング	和泉市	<p>おすすめコースを紹介するなど、ウォーキング活動を促進。</p>
みどりの維持管理	アドプトロード アドプトリバー	大阪府	<p>市民グループや企業等の賛同を得て、道路や河川の一定区間の清掃や緑化などの美化活動を継続的に実施していただくもの。</p>   <p>アドプトリバー・南横山 アドプトロード・上町</p>	

対象	施策類型	名称	主体	概要
市街地	みどりの維持管理	個人ふれあい道路事業	和泉市	市内にある道路等の公共施設の一定区域における清掃、緑化等のボランティア活動を行おうとする個人を支援し、地域に愛されるきれいな公共施設づくりと地域の環境美化の推進を図ろうとするもの。
		ふれあい道路事業	和泉市	市内にある道路等の公共施設の一定区域における清掃、緑化等のボランティア活動を行おうとする自治会、市民グループ等を支援し、地域に愛されるきれいな公共施設づくりと地域の環境美化の推進を図ろうとするもの。
		公園サポーター制度	和泉市	公園環境の美化や公園利用のマナー啓発等を行う市民ボランティアを支援する制度。
		地域の魅力・顔づくりプロジェクト	大阪府	日常生活の中で誰もが利用する「駅」周辺を、地域住民を含めた関係者と行政が協働して「美しく個性がきらめき、魅力ある空間に再生」して、まちの活性化につなげていくプロジェクト和泉中央駅周辺の清掃活動や歩行者デッキにおけるボランティアへの花植活動を実施している。。
その他		桃山学院大学との連携事業	和泉市 桃山学院大学	<p>和泉市では、桃山学院大学と知的・人的資源の交流や歴史・文化資源の活用など包括的な連携のもと、教育、文化、福祉、まちづくり等の分野において相互に協力・協働し、活力ある地域社会の創造、人材育成及び両者の発展に寄与することを目的に、包括連携に関する基本協定書を締結している。</p>  <p>ららぽーと和泉で開催された「えほんのひろば&ダンボールで遊ぼう！」</p>

参考（第 19 回（平成 29 年度）ツデーウォークルート図）

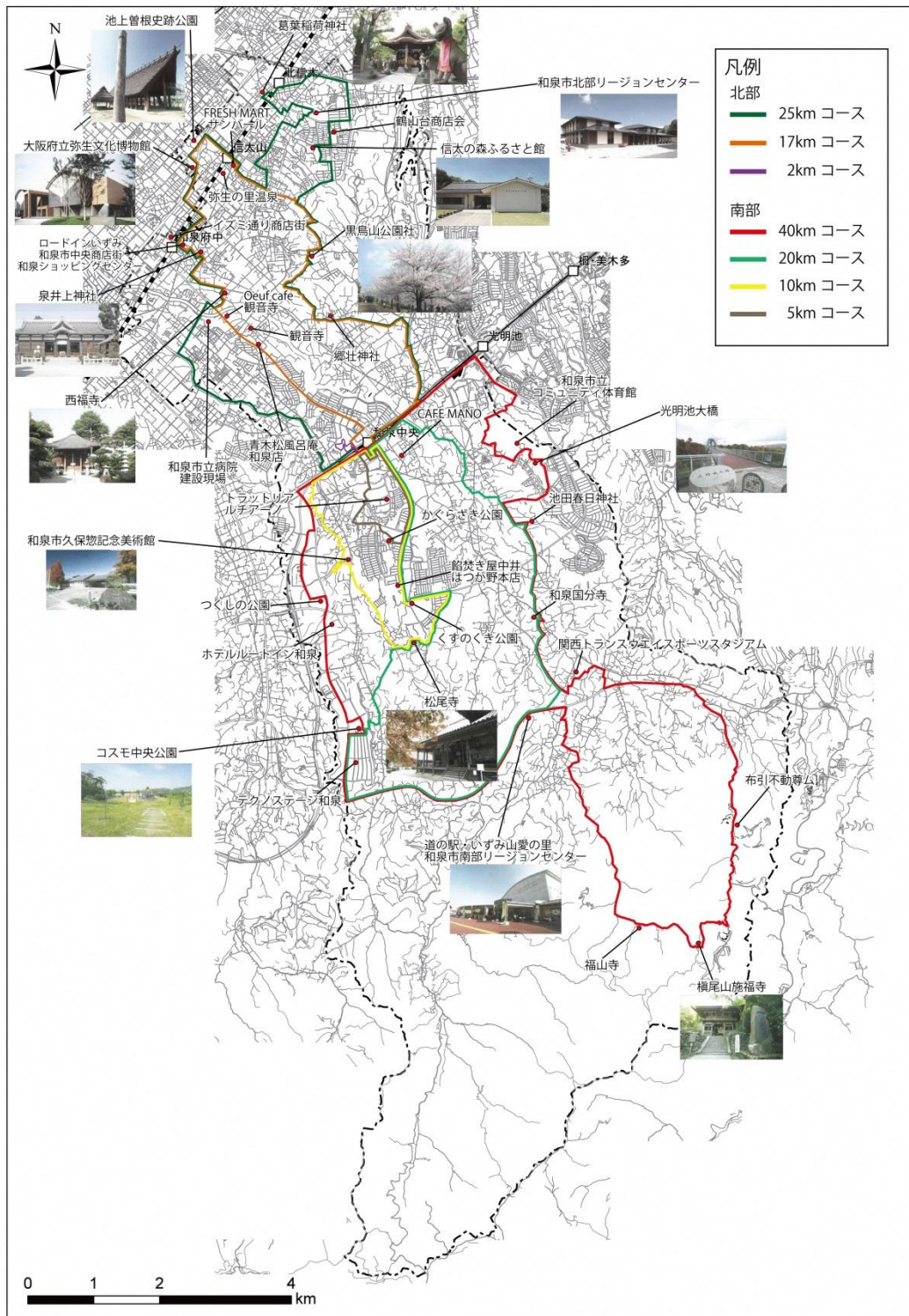


図 第 19 回（平成 29 年度）ツデーウォークルート

(1)山地・丘陵地

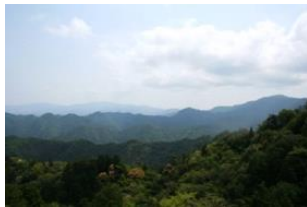
1) 和泉山脈

和泉山脈は豊かな山林に覆われ主に林業が営まれています。また、豊かな自然環境が残されています。

青少年の家や槇尾山グリーンランドなど自然学習施設や自然環境を活かしたレクリエーション施設、槇尾山施福寺などの歴史・文化資源が立地しています。

市民アンケート調査では、今後残していきたいみどりとして、「まちから望み見ることのできる山の緑」が筆頭にあがっており、市域を取り巻く山地のみどりの保全が重要となっています。

そのため林業の振興を図るとともに、自然環境の保全・育成・活用、立地する施設や歴史・文化資源等と連携したみどりとのふれあい空間の形成が必要です。



和泉山脈の山林



青少年の家（バーベキュー場）

2) 信太山丘陵

信太山丘陵は自然性の高い里山環境が残り、自然環境を保全するための市民活動が実施されています。

市民アンケート調査では、北部地域の必要な施策として「公園・緑地・遺跡・寺社・農地などを活用した、ふれあい拠点の整備」が筆頭にあがっており、生物多様性に満ちた里山環境の保全、市民の憩いの場や自然体験の場、環境学習の場としての活用が必要です。



里山環境の残る自然



自然環境保全ための活動

(2) 農地

1) 農地・集落

本市の農地は、農作物の供給の場としてだけでなく、都市景観の向上、レクリエーション、災害防止等に資するみどりとして多面的な機能を発揮しています。

近年では、空家・空地の増加が見られ、その有効活用が課題となっています。また、市街化区域内で指定されている生産緑地は、指定から30年を経過し営農義務が外れる農地が出てきます。

市民アンケート調査によると、市民の農地に対する意識は高くありませんが、体験農園や観光農園、市民農園としての需要は高くなっています。

今後は、営農活動を基本としながら、集落と周辺の農地を含めたみどり空間の継承を図るとともに、市民のレクリエーションの場としての活用が必要です。



市街地の農地



果樹園

2) ため池

市内には数多くのため池が存在し、農業用水としてだけでなく、レクリエーションの場、生物多様性の場、都市景観の向上等に資するみどりとして多面的な機能を発揮しています。

現在、ため池を総合的に整備し、住民参加のコミュニティづくりを推進し、地域の快適環境づくりを行う「ため池オアシス」事業が、光明池や河原田池、黒石地区、三林地区で実施されています。

近年、ゲリラ豪雨の多発により、ため池の決壊など、災害につながる危険性も有し、ため池点検やハザードマップが作成されています。

今後は、災害への配慮を図りながら、農業用水としてだけでなく、レクリエーションの場、生物多様性の場、都市景観の向上等に資するみどりとして活用していく必要があります。



光明池



梨本上池

(3)市街地

1) 古くからの住宅地

本市の古くからの住宅地では、幅の狭い道路に住宅が建て詰まっているなど、みどりが少なく、防災上の問題のある地区がみられます。また、近年では、空家・空地の増加が見られ、その有効活用が課題となっています。

昔からの工場や事業所と住宅が混在する地域では、みどりが少ない地区もあります。

また、「いずみののちの森事業」など、住民、事業者、行政の協働によりみどりづくりを進めてきました。

市民アンケート調査では、今後残していきたいみどりとして、「家の周りに分布する緑」が筆頭にあがっていることから、防災上の課題解決を図りながら、みどり溢れる住宅地景観の形成、工場や事業所と住宅が混在する地域におけるみどりを活用した生活環境の向上、市民等との協働によるみどりづくりが必要です。



古くからの住宅地



事業所と住宅が混在する地区

2) 新しい住宅地

a) 最近のニュータウン

本市の新しい住宅地では、公園・緑地等のみどりが計画的に整備され、潤いのあるまちなみが形成されています。

また、「いずみののちの森事業」など、住民、事業者、行政の協働によりみどりづくりを進めてきました。。

市民アンケート調査によると、ニュータウンが広く整備されている中部地域のみどりの満足度は高く、今後必要な施策として、「緑の街並みづくり」が筆頭にあがっていることから、みどり豊かな住宅地景観の保全や市民等との協働によるみどりづくりが必要です。



新しい住宅地



協働によるみどりづくり

b) 高齢化が進むニュータウン

新しい住宅地の中でも、住民の高齢化や人口減少、施設の老朽化が進む地区があり、住み替えの仕組みづくりや空家対策などが課題となっているところがあります。

そのため団地等の再生・再編に合わせたみどりづくりや、みどりによる空地等の活用、みどり豊かな住宅地景観の保全とみどりづくりの担い手の確保が必要です。

3) 駅周辺地

和泉府中駅や和泉中央駅周辺では、駅前広場やアクセス道路等の開発整備が一定完了し、みどりが計画的に配置されています。一方で、北信太山駅や信太山駅周辺は、基盤整備が十分ではなくみどりづくりの取り組みもこれからです。

駅周辺地は、市内外から人々が集まる空間であることから、まちのシンボルとしてまちの顔となる整備が必要です。そのため継続してみどりを活かした潤いのある市街地整備を図るとともに、整備されたみどりは適正に維持管理を図り、市民の憩いの場、活動の場としてみどりを活用した魅力向上が必要です。



和泉府中駅へのアクセス道



和泉中央駅周辺の道路

4) 工業地

テクノステージ和泉の工業団地では計画的なみどりの整備により、潤いのある景観が形成されています。

今後も継続的に緑化を進めるとともに、整備されたみどりの維持管理が必要です。



テクノステージ和泉

(4)道路・河川

1) 道路

新しい住宅地等の道路は、計画的に街路樹の整備や中央分離帯の緑化が進められ潤いのある道路景観が形成されています。これらの道路では、動物の移動経路としての機能も発揮しています。一方で、古くからの住宅地等の道路は、潤いに欠けた道路もみられます。

近年では、豪雨や強風により道路沿いの緑地が崩落するなどの被害が起こっています。また、ナラ枯れによる被害の拡大や、竹の侵入により樹木が枯れ倒木被害の発生が懸念されるところもあります。

そのため、動物の移動経路などみどりの多様な機能を考慮した街路緑化の更なる促進を図るとともに、倒木等への対策も考慮したみどりの維持管理が必要です。



計画的に整備された街路樹



豪雨で崩落した道路沿いの緑地

2) 河川

榎尾川や松尾川は、河川沿いの緑道や公園の整備により、市民の憩いの場、レクリエーションの場となっています。また、生物の生息の場、動物の移動経路として、都市の生物多様性を高めています。

一方、榎尾川上流のダム事業用地では、住民の交流の場として、「笑働の森づくり」事業が実施されています。

今後は、市民の憩いの場やレクリエーションの場、生物多様性の保全、都市景観の向上、防災等の観点から、更なる河川の整備と維持管理が必要です。



松尾川



榎尾川

参考:主要道路沿いの倒木対策

平成 21 年（2009 年）に、大阪府内で初めて確認されたナラ枯れによる被害が、急速に拡大しています。これは、ナラ・カシ類などの高齢化に伴い、病虫害による被害を受けやすくなっていることが原因です。また、管理不足により放置された竹林が拡大し、竹の侵入を受けた周囲の森林でも、樹木が枯れています。高齢木の予防伐採や、被害を受け倒木の恐れのある枯れ木の処理、森林に侵入した竹を伐採することで、枯れ木等による主要道路への倒木被害、山腹崩壊を未然に防止する対策を実施しています。

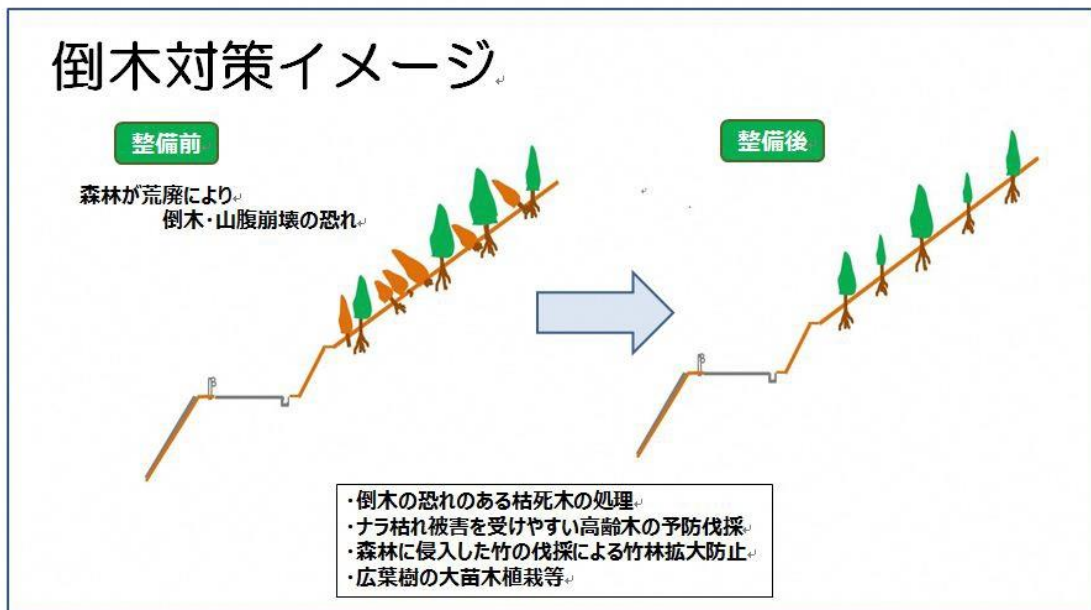


図 倒木対策のイメージ



倒木対策実施箇所（春木川町地区）

出典：大阪府HP

3) 歴史の道（小栗街道と周辺の歴史・文化資源）

小栗街道沿いには、古くからのまちなみが残っています。また、周囲には池上曾根遺跡や和泉黄金塚古墳、丸笠山古墳、泉井上神社などの歴史・文化資源が立地し、それらを巡るウォーキングイベント等が開催されています。

そのため、小栗街道の歴史的な雰囲気が残るまちなみの保全を図るとともに、周辺の歴史・文化資源との一体的な保全やみどりのまちづくり、それらを活かすネットワーク形成やアクセス性の向上が必要です。



小栗街道



歴史ウォーク

(5) 拠点となる施設

1) 公園・広場

本市の都市公園は、その整備が進みつつありますが、一人当たりの都市公園面積は現在のところ 8.0 m²/人であり、和泉市都市公園条例基準である 10 m²/人を満たしていません。

市民アンケート調査では、公園を「ほとんど利用しない」が大半を占め、公園の数についても「今のままで良い」が大半を占めています。また、今後利用したい施設として、「カフェなどの飲食が可能な休憩施設」が全ての年齢層に支持されています。30歳代では「大型複合遊具」の支持も高くなっています。

近年、公園によっては豪雨や強風により、公園内の樹木が倒れるなどの被害が起こっているところもあります。

そのため住民のニーズや必要性を踏まえた公園の整備（公園の再整備を含む）とともに、倒木対策等も考慮した適切な維持管理が必要です。



松尾寺公園



台風で倒れた小田公園の樹木

2) 公共施設のみどり

公共施設は、計画的なみどりの整備により、潤いのあるまちなみ形成に貢献しています。特に久保惣記念美術館周辺は、教育、研究、文化・交流機能などの充実を図る予定であり、また周辺のまちなみでは、落ち着いたまちなみ保全のための景観づくりに取り組むこととなっています。

また、現在、市役所では建て替えが進められており、それに併せて市民広場の整備が予定されています。

そのため、公共施設においては、建て替えや新規整備に合わせて緑化を図るとともに、それらを中心としたみどりのまちづくり推進が必要です。



久保惣記念美術館



新庁舎イメージ

(6)みどりのまちづくりの仕組み

1) 多様な主体の連携

本市では、「アドプトプログラム」、「いずみいのちの森事業」(令和元年度まで)、「信太山保全活動」等を通じて、住民や事業者等がみどりのまちづくりに参画しています。

市では森林や農地の担い手づくりの一環として、森林ボランティアや援農ボランティアの育成を支援するとともに、学校等とも連携し、みどりに関わるイベント等を実施し、みどりづくりに対する意識啓発を実施しています。その他、苗木配布等の助成事業を通じて、民地の緑化の支援等も実施しています。

近年では、桃山学院大学と、まちづくり等において相互に協力・協働する包括連携に関する基本協定を締結し、協働による取り組みの機運がますます高まりつつあります。

みどりのまちづくりにあたっては、今後も情報発信などのみどりづくりの意識啓発を図るとともに、市民や事業者、幼稚園・保育園、各種学校、市民団体、ボランティア等との連携によるみどりのまちづくり活動をさらに発展させていくことが必要です。



いずみいのちの森づくり事業での苗木配布



桃山学院大学との連携

2) 事業展開

本市では人口減少、少子高齢化の進行が予想されており、市の財政はさらに厳しくなります。また、公共施設やインフラ等の整備は一定終了していますが、今後はこれらの改修・更新の費用負担が大きくなってきます。

みどりのまちづくりの取り組みにあたっては、「選択と集中」を重視したメリハリのある施策実施を図るとともに、効率的な事業展開と財源確保の仕組みづくりが必要です。